

**WEEKLY SIGNAL**

2020年10月23日(金) 1547号

上田八木短資株式会社

**来週の市場とレート予想**

	10/26(月)	10/27(火)	10/28(水)	10/29(木)	10/30(金)
無担保O/N			△ 0.087%	～ 0.001%	
銀行券	トシ	トシ	トシ	トシ	△ 500
財政他	△ 45,500	+ 1,000	△ 3,000	+ 1,000	△ 900
資金需給	△ 45,500	+ 1,000	△ 3,000	+ 1,000	△ 1,400
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国庫短期証券発行(6M)				
オペ期日	CP等買入 △ 100 補完供給 + 500				
オペスタート	ETF買入 + 200				
(日本)	景気先行CI指数(8月) 景気一致指数(8月)			日銀金融政策決定会合、 終了後に結果を発表・総裁会見 小売売上高(9月) 百貨店・スーパー売上高(9月)	有効求人倍率(9月) 完全失業率(9月) 東京CPI(10月) 鉱工業生産(9月)
(海外)	米 新築住宅販売件数(9月)	米 耐久財受注(9月) 米 消費者信頼感指数(10月)	米 グラス連銀総裁、討論会に参加	米 新規失業保険申請件数 (10月24日終了週) 米 GDP(3Q) ユーロ圏 景況感指数(10月) ユーロ圏 消費者信頼感指数(10月)	米 シガン大学消費者マインド指数(10月) ユーロ圏 GDP(3Q) ユーロ圏 CPI(10月) ユーロ圏 失業率(9月)

**【インターバンク市場】**

無担保タム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.130

**＜インターバンク＞**

日銀当座預金残高は週初485兆2,000億円から始まった。その後は国債買入や短国の発行・償還に加えて、22日に新型コロナウイルス感染症対応金融支援特別オペが2兆7,560億円落札されたこともあり、過去最高の489兆4,800億円を越えた。  
無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.031%で始まった。先週に引き続き強い地銀業態の調達ニーズに加えて、一部都銀業態の調達意欲が徐々に強まったことから、同加重平均金利は上昇基調となり、週末は△0.012%まで上昇した。  
タム物は、ショートタムを中心に、主に△0.030%～△0.010%の出合がみられた。  
来週は国内では日銀金融政策決定会合(10/28-29)、有効求人倍率・完全失業率の公表(10/30)、海外では米新築住宅販売件数の公表(10/26)、10月の米消費者信頼感指数の公表(10/27)、米新規失業保険申請件数、GDP(3Q)の公表(10/29)などがある。

**【オープン市場】**

CP3M(a-1+)	△0.040 ~ 0.000
TDB 3M	△0.130 ~ △0.080
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

**＜CP＞**

今週の入札発行総額は約2,600億円、週間償還額(約1,800億円)を上回った。発行市場は、食品や小売業の大型発行があり発行超となったが、週を通じて発行案件は少なく、落ち着いたマーケットであった。発行残高は先週末の23兆6,123億円から、22日時点で23兆9,786億円と増加した。発行レートは、先週と変わらず△0.04%～0%近辺での出合いであった。  
来週の週間償還額は、月末償還(約1兆200億円)を含め1兆900億円程度となっている。月末スタートの新規および継続案件が見込まれるため、取引は活況となることを予想する。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出合いが中心と思われるが、希少銘柄ではやや強いマイナスレートでの出合いを予想する。CP買い入れオペが、27日に6,000億円程度オファーされる予定。

**＜TDB＞**

19日の1Y945回債(10/20償還)の入札は、最高落札利回り△0.1288%(前回債△0.1365%)、平均落札利回り△0.1348%(同△0.1365%)となり、入札後△0.143%～△0.142%の出合が見られた。22日の6M946回債(4/26償還)の入札は、最高落札利回り△0.0982%(同△0.1122%)、平均落札利回り△0.1002%(同△0.1202%)となり、入札後△0.10%の出合が見られた。23日の3M947回債(2/1償還)の入札は、最高落札利回り△0.0744%(同△0.0781%)、平均落札利回り△0.0793%(同△0.0834%)となり、入札後△0.081%の出合が見られた。そのほかセカンダリーでは概ね3M物が△0.093%～△0.090%のレンジ、6M物が△0.132%～△0.10%のレンジ、1Y物が△0.144%～△0.143%のレンジで取引された。

**＜レポ＞**

足許GC取引は週初△0.085%～△0.07%の出合いから始まり、以降レートは低下。短国買入オペがオファーされた22日受け渡しでは△0.095%～△0.085%で取引された。その後、短国3Mの発行日となる26日受け渡しは△0.08%～△0.075%で推移した。SC取引では、2年408～417回債、5年137～145回債、10年336～360回債、20年169～174回債、30年59～68回債、40年10～13回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。